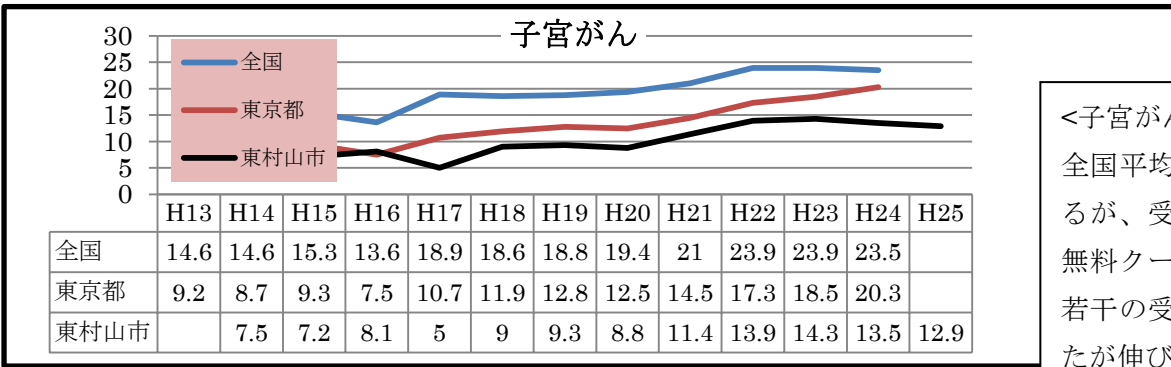


保健計画・健康ひがしむらやま21	施策の方向	展開方向	
	がん予防対策	①がん検診受診促進のための普及啓発 ②精度管理の推進 ③健康教育の充実 ④受けやすい環境づくり	①生活習慣の改善 ②がん検診受診率の増加 ③がん検診の利便性の向上 (受診方法・時期等)

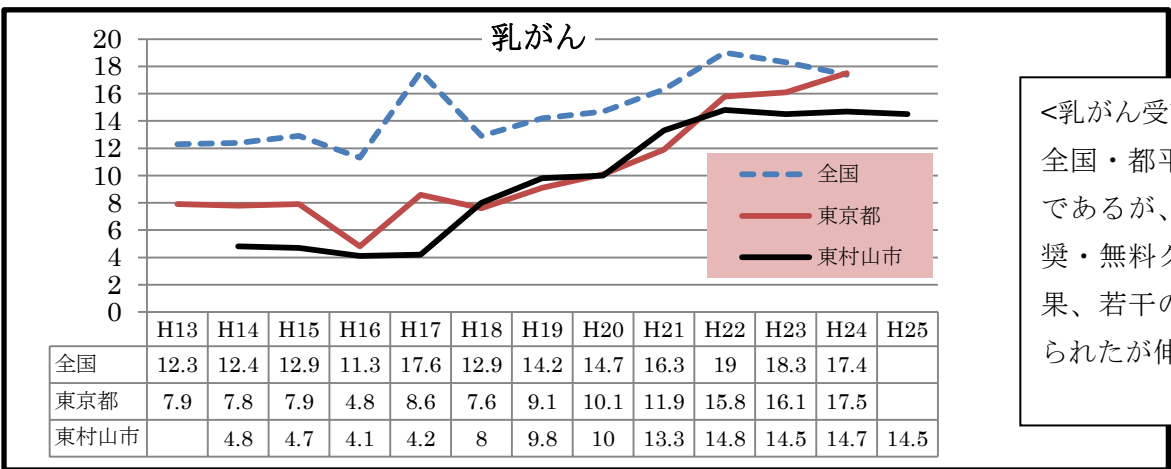
項目別取組状況

	平成 25 年度取組	平成 26 年度実施計画
受診促進のための普及啓発	<p>■特定年齢者へ個別に受診・再受診勧奨通知（未受診者）及び無料クーポン事業（総合計画（実施計画計上））を実施 無料クーポン対象者（下線は再勧奨（未受診者）通知年齢）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳がん：40・45・50・55・60 歳（※開始H21 年度）</li> <li>・子宮がん：20・25・30・35・40 歳（※開始H21 年度）</li> <li>・大腸がん：49 歳（勧奨・再勧奨通知のみ。無料クーポンなし ※開始H23 年度）</li> </ul> <p>■特定健診通知にがん検診関連情報を記載し受診啓発を実施</p> <p>■乳がんキャンペーン（健康のつどい 2 日間）の実施</p>	<p>■無料クーポン事業及び再勧奨</p> <p><u>無料クーポン対象者：過去 5 年のうち、無料クーポン未利用者（乳がん、子宮がん）</u></p> <p>再勧奨（未受診者）通知年齢（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳がん：40 歳</li> <li>・子宮頸がん：20 歳</li> <li>・大腸がん：49 歳（未受診者勧奨通知のみ）</li> </ul> <p>■継続</p> <p>■継続</p>
精度管理の推進	<p>■精密検査対象者へ早期受診勧奨・追跡等、精検後の結果把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5 がん検診について、受診率の伸び悩みが課題である。</li> <li>・精検受診率 24 年度（別紙参照）</li> </ul> <p>精検受診率は 5 がん検診について、目標値に達しているが、肺がん、乳がん検診については要精検率が許容値を上回っており、個々の医療機関の検証が必要である。</p>	<p>■フォロー継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精検受診率</li> <li>※25 年度追跡中</li> </ul>
健康教育の充実	<p>胃がん講演会</p>	
受診しやすい環境づくり	<p>■子宮がん・乳がん検診の実施期間を 5 か月から 7 か月間に拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳がん・子宮がん早期受診・駆け込み受診対応として、前年より早めの通知予定</li> <li>・未受診者の再勧奨通知時期：10 月下旬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続</li> </ul>

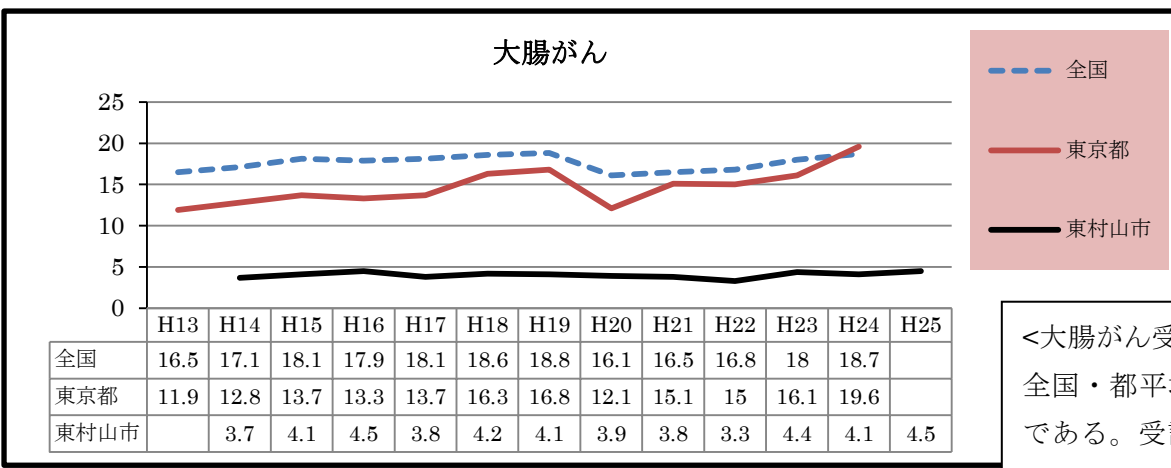
◆受診率の推移



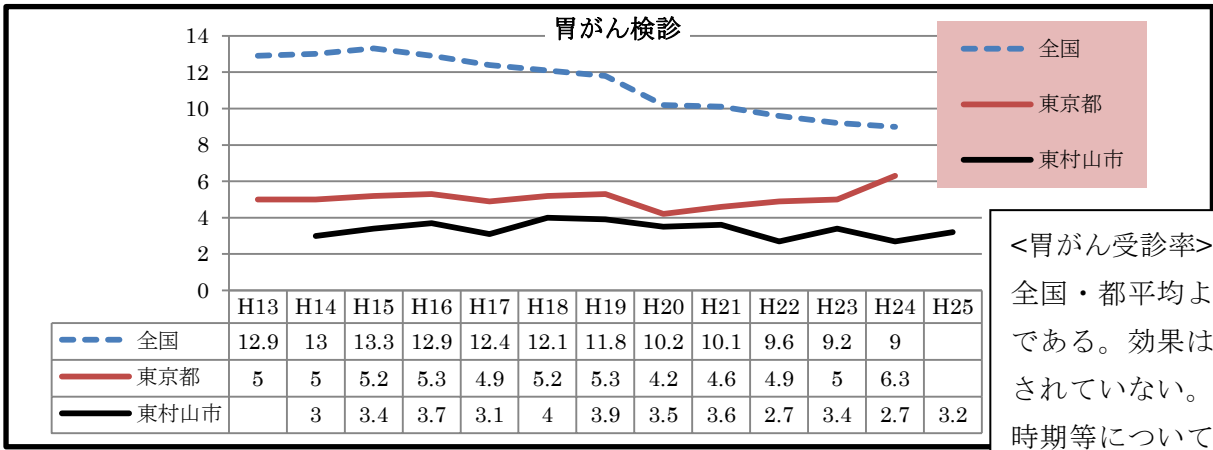
<子宮がん受診率>  
 全国平均より低い結果であるが、受診勧奨・再勧奨・無料クーポン事業の結果、若干の受診率向上がみられたが伸び悩んでいる。



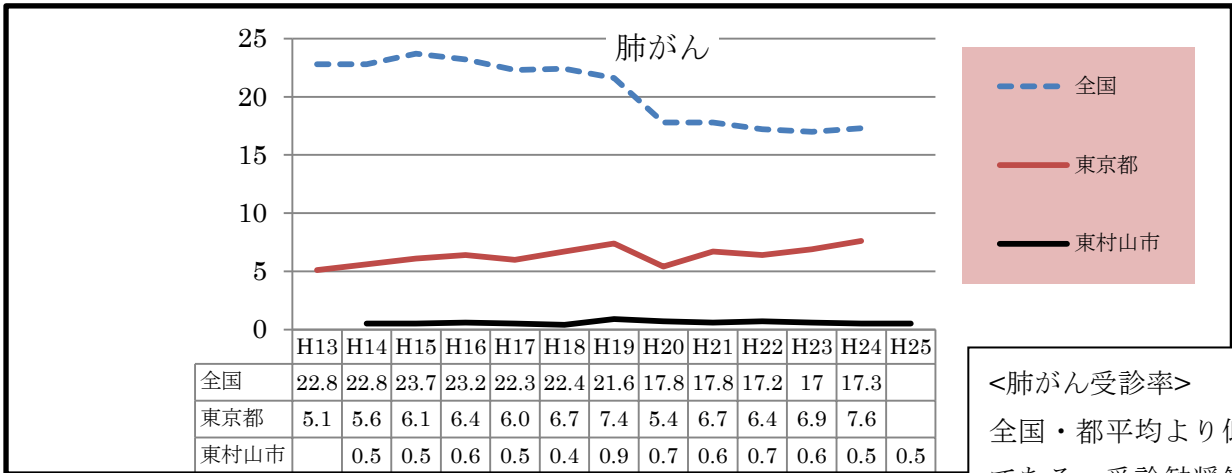
<乳がん受診率>  
 全国・都平均より低い結果であるが、受診勧奨・再勧奨・無料クーポン事業の結果、若干の受診率増加がみられたが伸び悩んでいる。



<大腸がん受診率>  
 全国・都平均より低い結果である。受診勧奨・再勧奨の結果、若干の受診率増加がみられたが、効果は十分に反映されていない。啓発・実施時期等について検証が必要である。



<胃がん受診率>  
 全国・都平均より低い結果である。効果は十分に反映されていない。啓発・実施時期等について検証が必要である。



<肺がん受診率>  
 全国・都平均より低い結果である。受診勧奨等の啓発の結果、効果は十分に反映されていない。啓発・実施機関・実施時期等全般について検証が必要であり、受診率を上げることが優先課題である。

【精度管理評価】(厚労省がん検診事業評価に関する委員会)

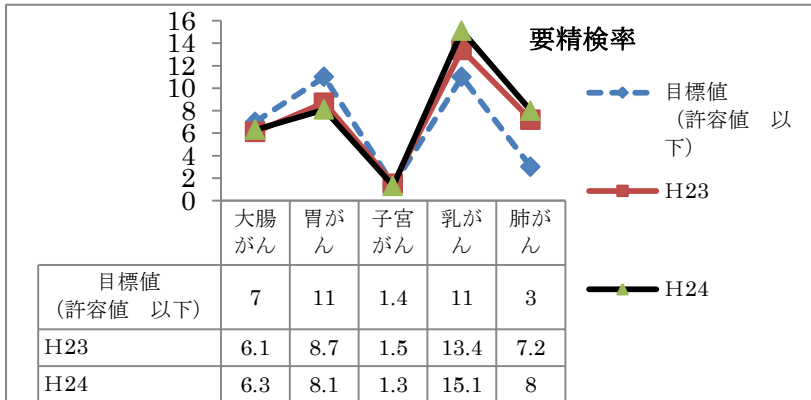
<精度管理の指標>

○受診率    ○要精検率    ○精検受診率    ○精検未把握率

<目標値(許容値)>

国の示す暫定の値であり、決して「ゴール」ではない。

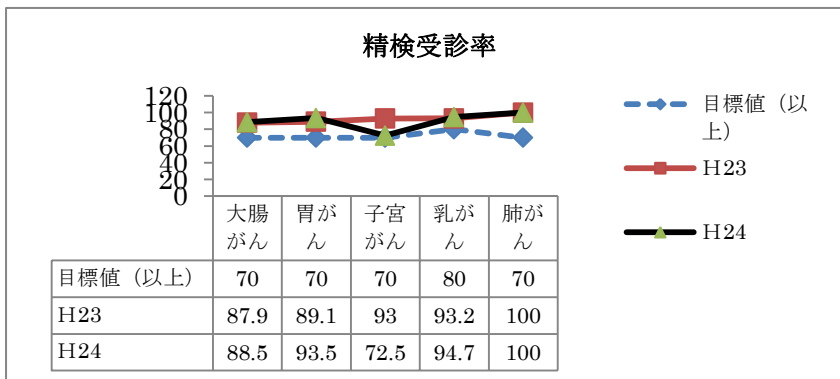
◆要精検率(がん検診受診者のうち、精密検査が必要な者の割合)



<要精検率>

○肺がん、乳がん検診は、許容値を上回っており、実施機関の精度管理の向上が必要である。要精検率が高くなるほど要精検といわれたが、実際にはがんでなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性がある。

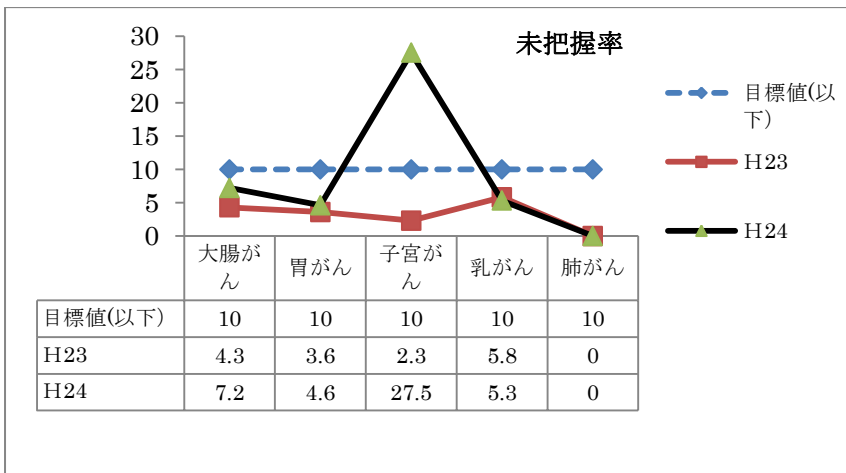
◆精検受診率(精密検査を受けた者の割合)



<精検受診率>

○5 がん検診について、精検受診率は目標値を達成している。

◆精検未把握率(精密検査を受けたかどうか追跡できなかった者の割合)



<精検未把握率>

○平成 24 年度について、子宮がんのみ未把握率が高かった。  
理由: 20 歳代、30 歳代、40 歳代に追跡しても連絡が取れない方が多い。